

第2部 都市景観形成の課題

1. 都市景観の現況
2. 骨格的景観の整理と類型化
3. 函館市の景観特性と課題

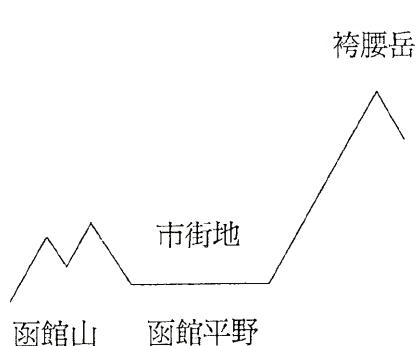
都市景観形成の課題

函館市がもつ景観資源には、地形や緑・水などの自然的な景観資源、「西部地区」や特別史跡五稜郭跡などの歴史的・文化的な景観資源、そして都心（駅前）商店街周辺地区、五稜郭商店街周辺地区、湯の川地区、美原地区などの社会的な景観資源などがある。

これらの景観資源が函館らしさを形づくっているが、今後、保全していくべきもの、育成あるいは創造していくべきものも多い。

ここではそれらを、自然系、歴史・文化系、社会系と、大きく3つに分類をしながら函館市の都市景観の現況を整理・分析する。

(1) 自然系



- ・地形 標高 334mの緑の山—函館山—を南端にもち、北側は市街地の広がる函館平野、さらに北には標高 1,000mを越える袴腰岳を頂点とする緑の背景が広がっている。

また、市街地は、東は大森浜、西は函館港、そして南は津軽海峡と、三方を海に囲まれた独特の地形をもっており、函館市の景観を形づくる魅力ある都市景観の骨格となっている。

- ・緑 函館山の緑が函館のランドマークとなっており、袴腰岳につらなる北側の緑のエッジとともに緑の骨格となっている。

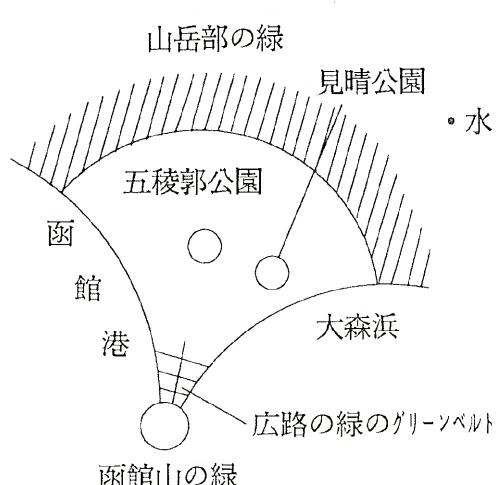
市街地には、中央部に五稜郭公園、東に見晴公園、南に函館山緑地などが点および面状にあり、線状には、都心部に走る広路の緑（グリーンベルト）がある。

しかし、公園・緑地の整備状況は、ネットワーク、量とも充分ではない。

海峡都市・函館、港町・函館といわれるよう、扇状の市街地の周囲を海と港に包まれた、水に恵まれた都市である。

函館港のウォーターフロントの整備は、函館市の都市景観の魅力を高める意味でも重要なリーディングプロジェクトである。

市街地内では、南北に走る二級河川があるが、現況では河川という、都市景観を形成する上で重要なオープンスペースを、必ずしも充分にはいかしきれていない状況にある。



(2) 歴史・文化系

函館は、わが国における最初の国際貿易港として開港し、異文化との交流の中から生まれた特有の都市景観をそなえている。

それは、函館山の裾野に広がる「西部地区」の町並みに、特に顕著に表れている。

また、函館はアイヌと和人との交流の歴史、旧幕府軍と官軍との戦いの歴史を色濃く残している。

教育文化施設については、公民館、図書館、博物館などの施設が、函館の中心であった「西部地区」に集中しているが、市街地が東部や北部へ拡大してきたことに伴い、スポーツ施設を含めた教育文化施設全般に地域的な偏りが見られるようになっている。

・歴史的景観地区、歴史的建造物等

函館市における代表的な歴史的遺産として「西部地区」と「特別史跡五稜郭跡」をあげることができる。

「西部地区」においては、国際交流の跡を色濃く残しており、異文化との交流の影響を受けた建造物が多く残されている。

これらは、「函館市西部地区歴史的景観条例」により、一定の保全・保存策が展開されてきた。

「特別史跡五稜郭跡」については、現在、その保存・整備に取り組んでいるところである。

・教育文化施設

市街地の拡大に伴って、施設配置に地域的な偏りが見られるが、全市的に適正な施設の展開・拡充がのぞまれると同時に、施設の老朽化への対応や、多様化、高度化する市民の学習活動にこたえるための施設の整備・充実が必要となっている。

(3) 社会系

豊かな自然景観と歴史・文化景観の蓄積を有する函館ではあるが、都市の諸活動の反映である社会的な景観資源の蓄積については、これから整備によるところが大きいといえる。

交通環境および土地利用等の整備、産業の活性化、国際観光都市としての展開、函館港再開発の推進や商業地・住宅地の計画的整備などが課題となっている。



・交通環境

道路網としての6放射4環状線の整備と、マストラ強化軸としてのY字軸の整備が大きな課題となっている。

それとともに、今後は、美しい道路づくりの推進や道路緑化、歩行者系道路。河川緑地とのネットワーク化などが求められる。

・土地利用等

函館市の歴史は大火の歴史であるともいわれており、火災復興による面整備によって都心部が整備されてきた。

現在、その都心部と五稜郭商店街周辺地区および美原地区が代表的な商業ゾーンとなっており、その周辺は、ある程度用途が混在している住宅地、さらに北の外縁部は、中高層住宅を含む住宅地、低層住宅の住宅地として、土地利用がなされている。

今後は、既成市街地の更新と、外縁部の魅力ある新市街地の形成が必要となっている。

・産業の活性化

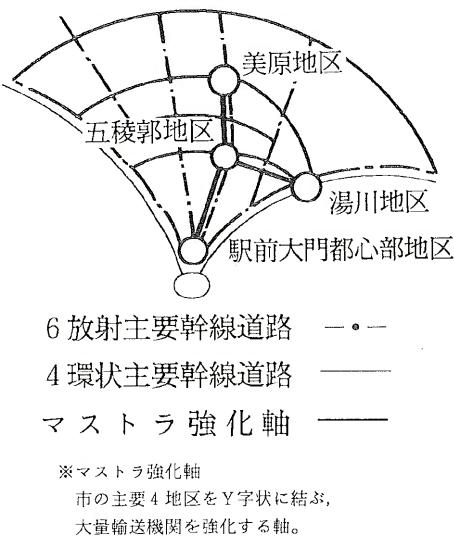
市の魚として“イカ”が定められていることにも表れているように、水産業のまちとして繁栄してきた函館は、北洋漁業の衰退とともに、基本的な産業構造の変換を図りつつある。

青函経済圏の確立、函館臨空工業団地に代表されるテクノポリス函館の推進、拠点性を高める商業核の整備・充実などが、都市景観の形成とあわせて大きな課題となっている。

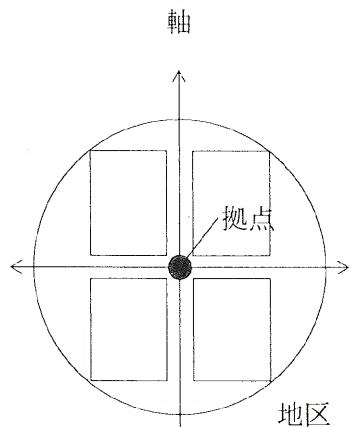
・観光

函館市の観光客入込みは、極めて順調に推移し、年間500万人を数えている。

函館市の主要な観光資源は、函館山山頂からの昼・夜の景観や、「西部地区」、「特別史跡五稜郭跡」に代表される歴史的な観光資源などであるが、今後一層の魅力形成を目指し、都心部やウォーターフロントの整備、特別史跡五稜郭跡周辺の整備、湯の川地区の整備などとともに、地域をあげた受け入れ体制の充実がのぞまれる。



2. 骨格的景観の整理と類型化



景観の基本骨格

ここでは、函館市において都市景観の骨格を形づくっている構成要素を、大きく3つの要素一点（拠点）・線（軸）・面（地区）一に類型化し、その具体的要素を抽出・整理する。

市全域	拠点の景観	— 大規模施設、公園、史跡 等
	軸の景観	— 道路軸、河川軸 等
	地区の景観	— 市街地、自然・緑地 等

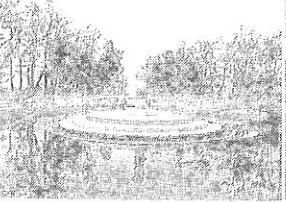
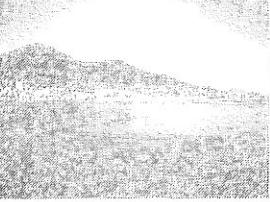
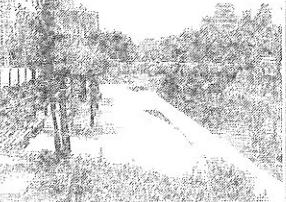
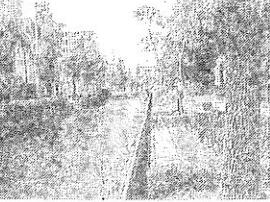
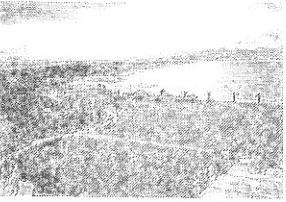
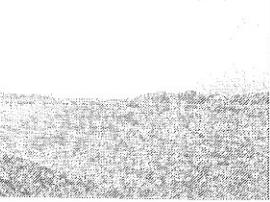
以下に他都市の事例を含めて、景観構成要素と、景観としての用語（拠点・軸・地区）に類型化した比較図を示す。

景観構成要素（自然的要素）と景観の類型<例>

自然的要素

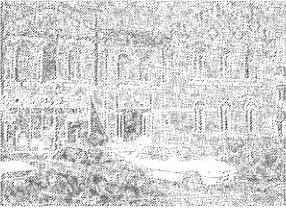
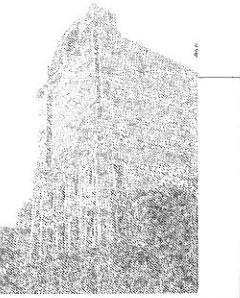
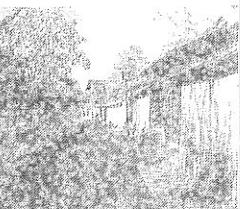
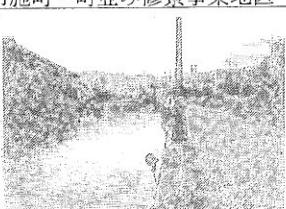
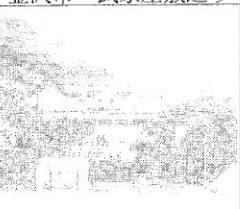
- 地形的要素
 - ・高低差により生じた地形（山、大地、丘陵地、低地）
 - ・入江、島、砂州等により構成された自然の形
- 水系的要素
 - ・海、湖、川
 - ・水路、運河
 - ・港
- 緑による要素
 - ・森、林
 - ・保存樹林、保存樹
 - ・都市公園等の公園
 - ・街路樹

景観の類型

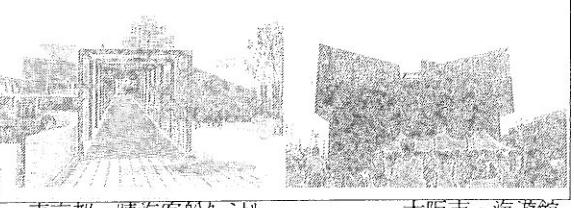
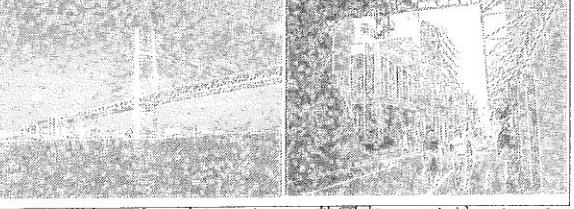
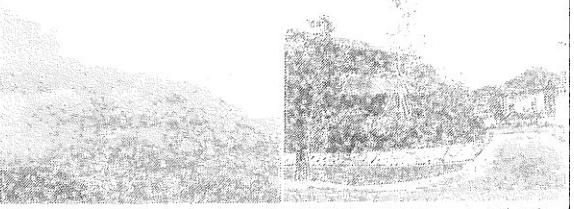
拠 点	児童公園 都市公園 山、頂、島 修景池 入江	 	舞阪町・ウォータースエア 函館市・函館山
軸	河川、水路 運河 街路樹 海岸線等の水際線 (境界の景観ともいう)	 	富山市・松川 富山市・松川
地 区	湖、海 山、樹林地 小規模緑地、公園	 	福岡市・海の中道海浜公園 浜名湖



景観構成要素（歴史的要素）と景観の類型<例>

歴史的要素	景観の類型
<ul style="list-style-type: none"> ● 時代の背景を彩る建物 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財、街道等、現存するもの 	<p>拠 点</p> <p>歴史的建造物 寺社仏閣 文化財 古橋等のランドマーク 門</p>   <p>函館市・はこだて明治館 横浜市・日本火災横浜ビル</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 古墳、遺跡等歴史の痕跡を残すもの 	<p>軸</p> <p>街 道 歴史的町並み</p>   <p>小布施町・町並み修景事業地区 金沢市・武家屋敷通り</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 詩歌等の無形のもの 	<p>地 区</p> <p>伝統的建造物群保存地区 古墳群 集落 武家屋敷群</p>   <p>小樽市・小樽運河 函館市・西部地区</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 新しく歴史を再生したもの 	

景観構成要素（社会的因素）と景観の類型<例>

社会的因素	景観の類型
<ul style="list-style-type: none"> ● 土地利用に関するもの <ul style="list-style-type: none"> ・用途地域 商業系・工業系・農業系土地利用 	<p>拠 点</p> <p>駅前広場 観光の拠点 大規模施設 (公共公益施設、工場、ホテル、集合住宅等)</p>  <p>東京都・晴海客船ターミナル 大阪市・海遊館</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 都市構造の基幹的部分に関するもの <ul style="list-style-type: none"> ・道路網 ・鉄道網 ・下水道 	<p>軸</p> <p>道 路 (シーサイドロード、遊歩道、主要地方道、国道) 鉄 道 (高架、橋等) せせらぎ等の親水モール 商店街</p>  <p>横浜市・ベイブリッジ 静岡市・コリドー1・2</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 施設に関するもの <ul style="list-style-type: none"> ・都市施設 ・大規模建築物 ・土木構造物 	<p>地 区</p> <p>観光レクリエーション地区 田・畑地区 文化ゾーン 商業工業ゾーン</p>  <p>函館市・函館山からの函館市街 福岡市・シーサイドももち</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口、上位計画等、眼に見えにくいが景観形成に影響を与えるもの 	



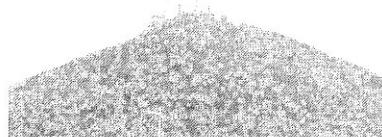
(1) 函館市において骨格となる拠点の景観

・自然系 函館山、公園・緑地（函館公園、千代台公園、五稜郭公園、ダム公園、見晴公園、四稜郭），立待岬，保存樹林，保存樹木

・歴史・文化系

国・道・市の指定文化財（有形），西部地区の景観形成指定建築物等。伝統的建造物，旧青函連絡船摩周丸，特別史跡五稜郭跡，北洋資料館，道立美術館，市民会館，史跡四稜郭，トラピスチヌ修道院，史跡志苔館跡

・社会系 函館山展望台，市庁舎，JR函館駅，ピアマーケット，五稜郭タワー，函館空港，歴史的建造物を再利用したものの（金森倉庫，明治館等）



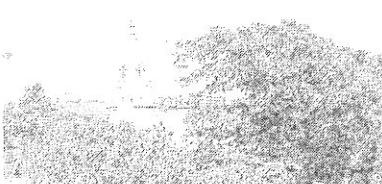
函館山



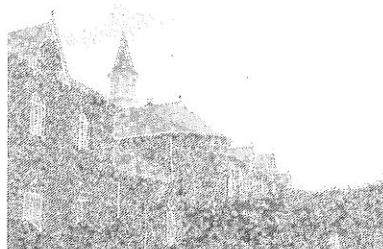
函館山より市街地を見る



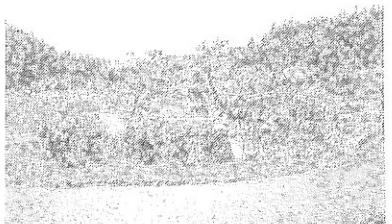
見晴公園



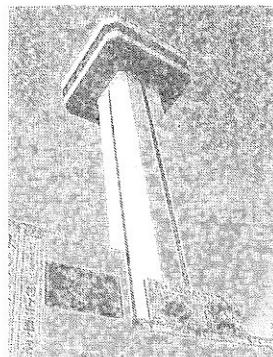
ハリストス正教会復活聖堂



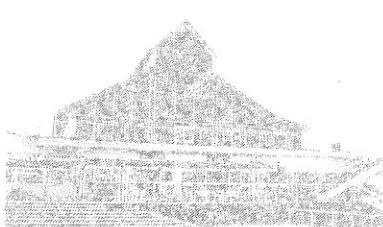
トラピスチヌ修道院



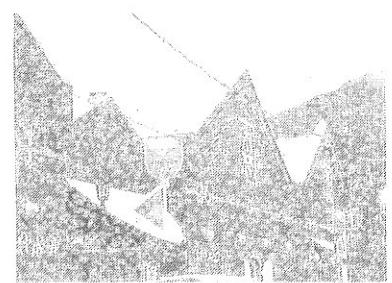
ダム公園



五稜郭タワー



ピアマーケット



金森倉庫群



(2) 函館市において骨格となる軸の景観

- ・自然系

大森浜，函館港，緑の軸線（公園，通り），国道5号沿いの赤松並木，西部地区の坂道，河川軸（亀田川等）

- ・歴史・文化系

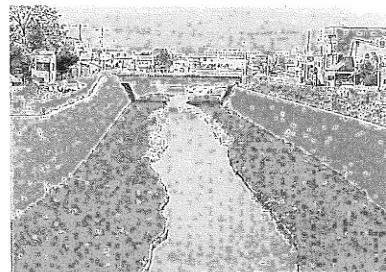
国道5号沿いの赤松並木，銀座通り，西部地区の道・坂道，グリーンベルト

- ・社会系

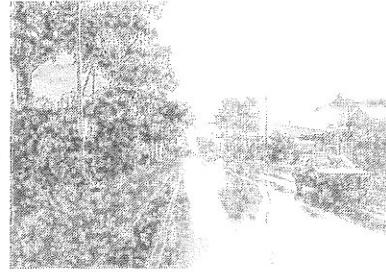
6放射4環状線，JR函館駅 ⇄ 西部地区の軸線，高規格幹線道路（函館・江差自動車道），都心部の広路，路面電車



大森浜の海岸線



亀田川



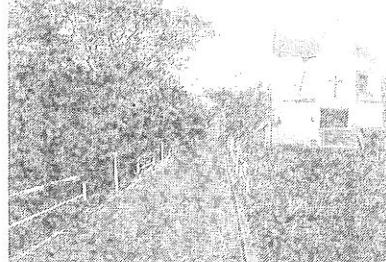
国道5号沿いの赤松並木



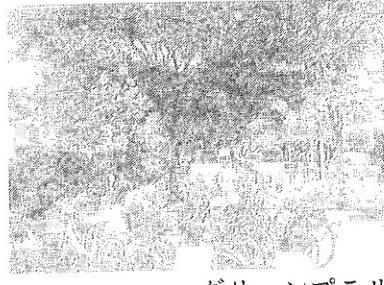
八幡坂



西部地区の石畳



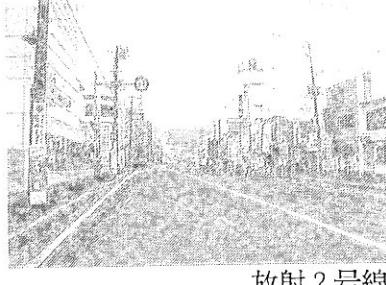
チャチャ登り



グリーンプラザ



函館港



放射2号線



(3) 函館市において骨格となる地区的景観

- ・自然系

自然景観保護地区、環境緑地保護地区、東部・北部の丘陵地の縁

- ・歴史・文化系

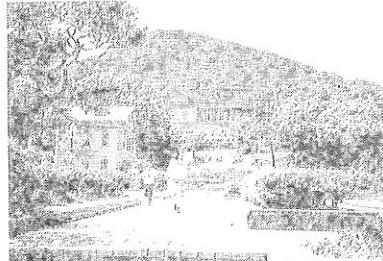
西部地区、特別史跡五稜郭跡周辺、湯の川地区

- ・社会系

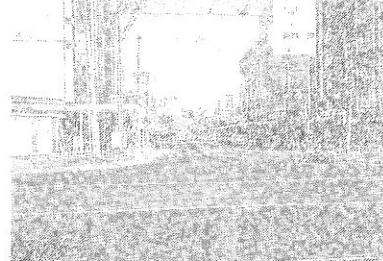
函館港（臨港地区）、都心（駅前）商店街周辺地区、五稜郭商店街周辺地区、湯の川地区（観光・温泉地区）、美原地区、市街地外縁の新住宅地、函館臨空工業団地



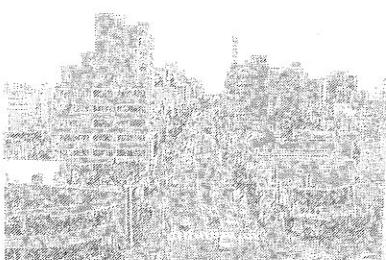
東部丘陵地



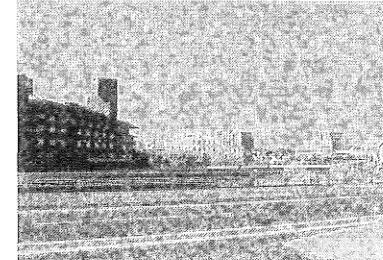
西部地区



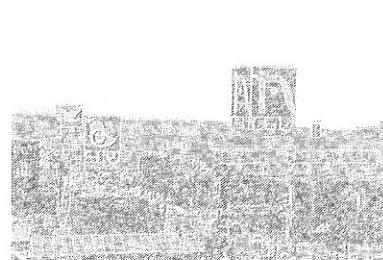
都心(駅前)商店街周辺地区



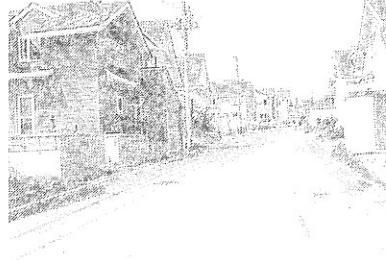
五稜郭商店街周辺地区



湯の川地区



美原地区



新市街地（美原台ニュータウン）



旭岡ニュータウン

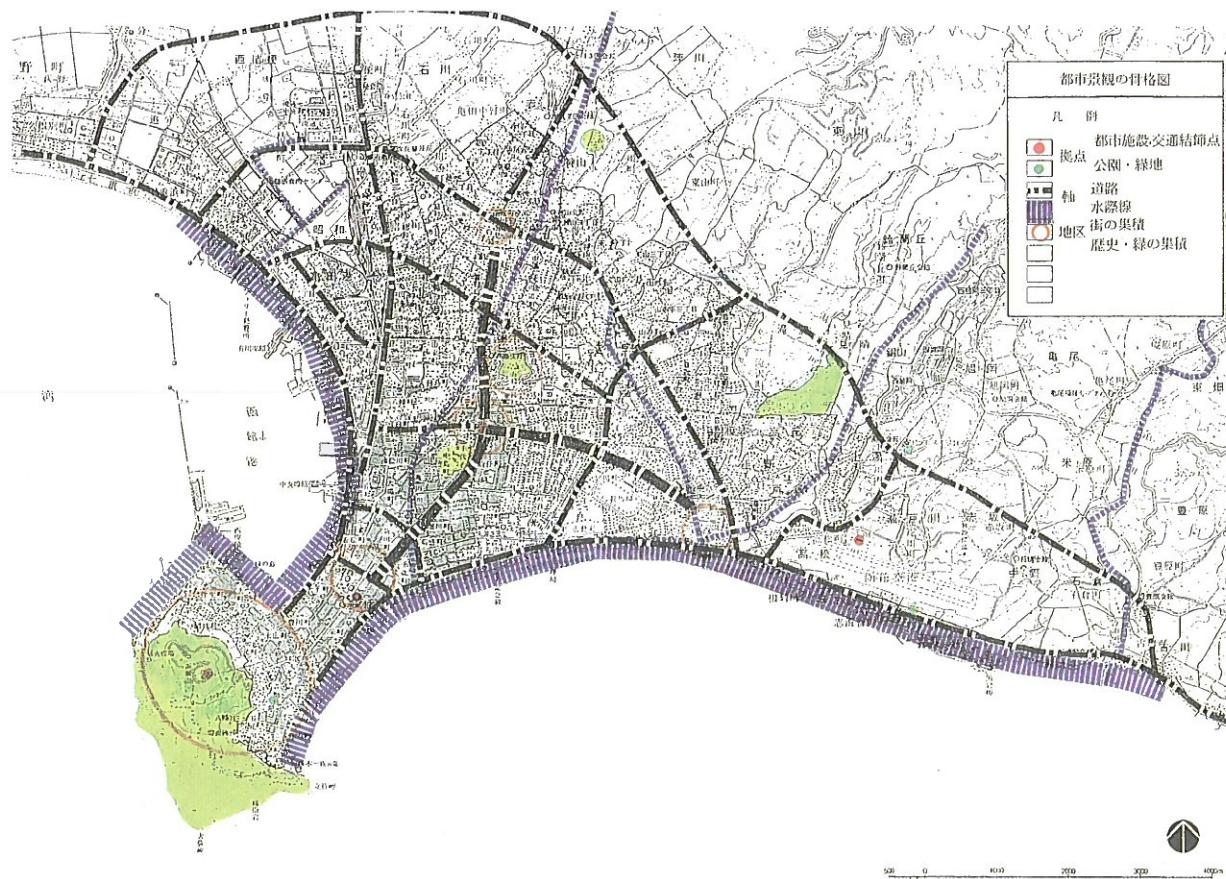


函館臨空工業団地



(4) 函館市において骨格となる類型別景観の概要

類型	主な景観ポイント	抽出の要因	類型	主な景観ポイント	抽出の要因
拠点 軸	J R 函館駅 函館山・函館山展望台 市 庁 倉 五 棱 郭 跡 郭 跡 四 志 苔 館 跡 院 園 ト ラ ビ ス チ ョ 修 道 見 晴 公 園 千 代 台 公 園 < 道 路 軸 > 6 放 射 4 環 状 線 (マストラ強化軸) < 河 川 軸 >	南北海道の顔として駅前広場を含めた魅力ある都市空間を創出すべき拠点 函館市を一望する眺望点としてのランドマーク 都心部であり、緑の軸線上にランドマークとして立地していることと、市民の集積する拠点である 国指定の特別史跡 国指定の史跡 観光と背景のもつ緑の拠点 函館市東の緑の拠点 既成市街地の緑とスポーツのアメニティ拠点 道路軸として現在及び将来骨格となる道路 放射(1~5号線), 大野新道 新外・外・中・第4環状線 大量輸送軸として都市軸を構成する道路 魅力ある河川軸を創造すべき代表河川	地区	常盤川, 亀田川, 松倉川, 鮫川, 湯の川, 汐泊川 <海岸線一 大 森 浜 函 館 港 函館山周辺地区 都心(駅前) 商店街周辺地区 五棱郭 商店街周辺地区 特別史跡 五棱郭跡周辺 湯 の 川 地 区 美 原 地 区	都心、郊外を流れる二級河川 自然の海岸線の保全を基本とした市における代表的なウォーターフロントである 巴型をした市の代表的港であり、歴史性とこれからのウォーターフロントを彩る(創造する)水辺である 西部地区を含んだ函館市における最大の觀光歴史拠点 都心部のルネッサンス(復活)が必要とされる地区 副都心として景観整備すべき地区 北の觀光拠点地区として整備すべき地区 国際觀光宣言都市として滞在・宿泊ゾーンとして早急に景観整備すべき地区 郊外拠点としてアイデンティティを創造すべき地区



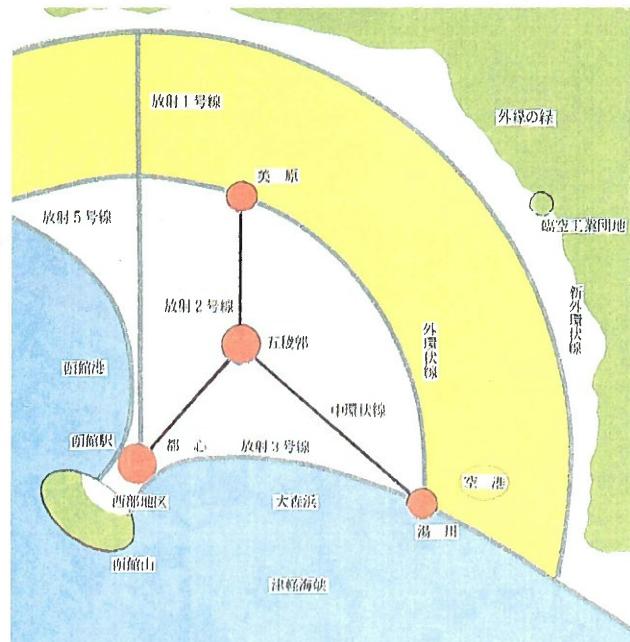
3. 函館市の景観特性と課題

(1) 函館市の都市景観の基本骨格

函館市の都市景観の基本的な骨格をなす事項を整理すると、以下の事項にまとめることができる。

- ・ 津軽海峡に突き出た緑の山・函館山が函館市の代表的なランドマークとなっている。
- ・ 函館山の裾野に、国際的交流都市の象徴である歴史的地区・西部地区がある。
- ・ J R函館駅周辺（都心部）をかなめとして扇状に広がる都市構造となっている。
- ・ 周囲を水に囲まれた（函館港、大森浜）独特の地形となっている。
- ・ 4つの拠点地区（都心商店街周辺地区、五稜郭商店街周辺地区、湯の川地区、美原地区）を結ぶY字状の骨格が函館市を支える都市軸となっている。
- ・ 外環状線から新外環状線の間に新市街地が広がりつつあり、その外側は自然の緑（農地 → 森林地域）が広がっている。
- ・ 都心周辺部、五稜郭周辺部、湯の川周辺部は都市活動と同時に、歴史・文化の拠点となっている。
- ・ 放射5号線沿いに工業地が連担している。

● 函館市の都市景観の基本骨格図

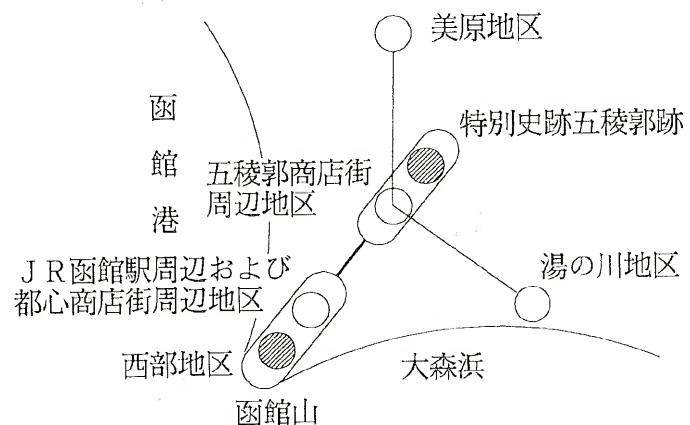


(2) 函館市の景観特性

ここでは、拠点・軸・地区という景観類型を、さらに都市レベルに拡大し、その類型ごとに函館市がもつ景観特性、いわゆる景観上の函館らしさについて整理する。

・拠点（都市レベル）の景観特性

都心としてのJR函館駅周辺および都心商店街周辺地区、副都心としての五稜郭商店街周辺地区、さらに、宿泊・シティリゾート拠点としての湯の川地区、郊外拠点としての美原地区を結ぶ、Y字構造の頂点が函館の拠点としての景観特性といえる。



最大の拠点であるJR函館駅周辺および都心商店街周辺地区は、背後に歴史的地区である西部地区をもち、五稜郭商店街周辺地区も背後に歴史の拠点としての特別史跡五稜郭跡を抱えており、両拠点は、自然と歴史・文化と社会の3つの要素をあわせもつ拠点となっている。

また、全市街地を眺望する眺望点として函館山の展望台があり、そこからみる夜景は、世界一の夜景ともいわれている。

北の東山周辺などの眺望点もまた、市街地が見渡せる絶好の眺望拠点となる可能性をもっている。

西部地区および特別史跡五稜郭跡は、函館の歴史を表現するきわめて重要な拠点といえる。



・軸（都市レベル）の景観特性

水と緑の軸が、いかに美しく明快かが、今後の函館の軸の景観を特徴づけるといえる。

函館は、水の軸線として東に大森浜の海岸線、西に函館港の海岸線をいただき、非常に恵まれた景観特性をもっている。

また、南北に流れる河川の軸線は今後の整備を要する。

緑の軸線は、多くの場合道路軸の緑、公園・緑地をつなぐ緑地軸である。

グリーンプラザの緑と、防火帯を兼ねて整備された都心部の広路以外は、道路軸の緑のネットワークは充分とはいえない。

6放射4環状線、マストラ強化軸としてのY字軸の動線を骨格となる都市軸として位置づけ、今後、魅力ある軸線に育っていく必要がある。

西部地区における街路・坂道は、整備が進んでおり、魅力ある石畳の道となりつつある。

・地区（都市レベル）の景観特性

拠点の景観で述べた4拠点の周辺を含めたゾーンが函館市における商業・観光地区であり、JR函館駅周辺および都心商店街周辺地区は、西部地区とあわせて、特徴ある景観をつくりつつある。

五稜郭商店街周辺地区は、現在、若者が中心のまちとなりつつあり、副都心としての特性がターミナル性と相まって、その魅力を増しつつある。

湯の川地区は、温泉地としての宿泊拠点の拡がりが今後期待できるが、現在は、その特性を醸成していない。

外縁部の新市街地は、おおむね美しい家並みをつくりつつあり、今後の整備によって、新たな住宅地景観を創出する可能性をもっている。

函館臨空工業団地を代表とする工業地については、クリーンな、美しく、親しまれる工業地として、整備が進められており、テクノポリス函館の進展により、新たな工業地景観を創出する可能性をもっている。



(3) 都市景観形成上の課題

良好な自然と歴史に恵まれた函館市は、その財産を守り育てつつ都市施策を展開し、活力あるまちにしていく必要がある。

都市基盤の整備、土地利用の再編（密集住宅地の解消など）、新しい産業の展開、観光都市としての整備など、景観整備と調整しながら進めていく必要のある課題も多い。

● 課題の整理

拠点 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・函館市の顔であるJR函館駅周辺および都心商店街周辺地区の整備 ・西部地区の歴史的景観の保全 ・五稜郭商店街周辺地区および特別史跡五稜郭跡周辺の整備とその一体化、実現のためのコンセプトの確立 ・市街地内の緑地・公園の整備による緑のネットワークづくり
軸 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・道路緑化の推進 ・河川軸の整備（親水化と緑化）と道路・公園とのネットワーク化 ・JR函館駅周辺↔西部地区の魅力ある動線づくり ・北国を代表するウォーターフロント函館港の再生 ・函館山→千代台公園→五稜郭公園→東山→山岳地の緑をつなぐ緑地軸の創出
地区 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・JR函館駅周辺と都心商店街周辺地区を含む都心地区の函館市の顔としての再生 ・商業地 - 各拠点地区の独自性の創出 ・住宅地 - 密集地の解消と景観誘導された新市街地の創出 ・工業地 - クリーンな工業地の創出、既成市街地内の工業地の集約と緑化

※ ここでは都市レベルの拠点、軸、地区を意味する。



第3部 都市景観形成の基本目標と基本方針

1. 基本目標
2. 基本方針

第3部

1. 基本目標

都市景観形成の

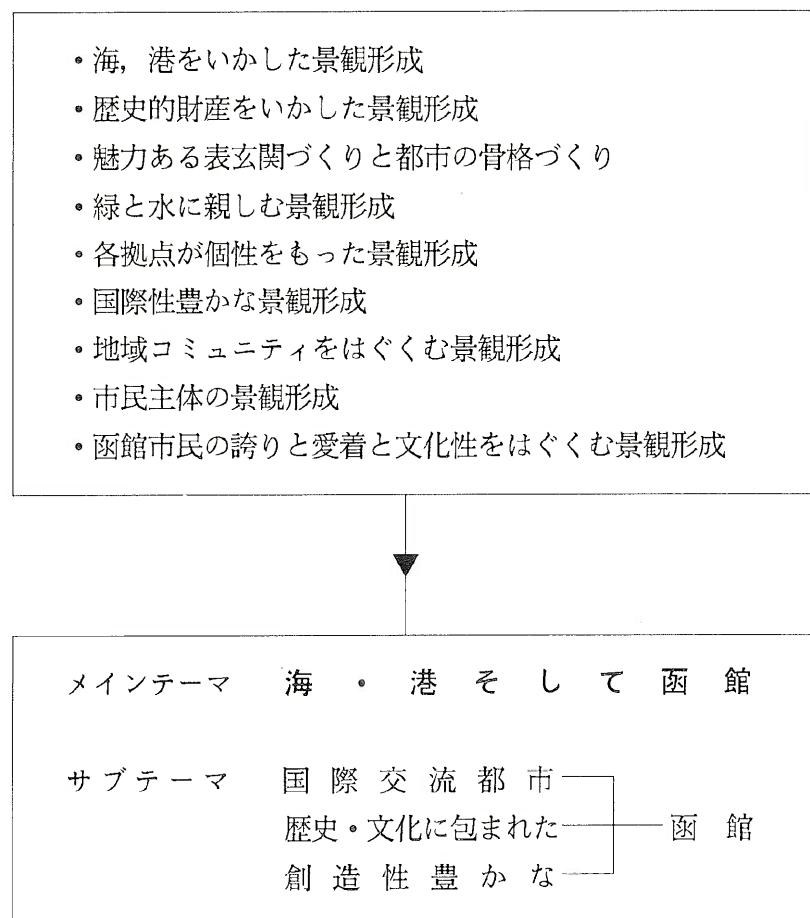
基本目標と基本方針

景観形成の目標および方針をたてるにあたっては、「函館らしさをいかした顔づくり」と「身近な周辺環境の整備」という2つの大きな視点が必要である。

それは、函館市のもつ自然や歴史などの恵まれた条件をいかし、個性豊かな都市環境を実現するとともに、市民生活の場としての都市の環境を、より快適で豊かなものとするうえで、大切な視点といえる。

● 景観形成の基本目標

- ・海、港をいかした景観形成
 - ・歴史的財産をいかした景観形成
 - ・魅力ある表玄関づくりと都市の骨格づくり
 - ・緑と水に親しむ景観形成
 - ・各拠点が個性をもった景観形成
 - ・国際性豊かな景観形成
 - ・地域コミュニティをはぐくむ景観形成
 - ・市民主体の景観形成
 - ・函館市民の誇りと愛着と文化性をはぐくむ景観形成



2. 基本方針

—函館らしい都市景観の形成をめざして—

(1) 函館らしさの保全・強調

函館らしさは、主として函館の地勢や成り立ちによって形づくられているが、それらを保全し、さらに強調していく。

① 地勢の面から

函館圏域の外縁を形成する丘陵・山岳部、扇状に展開する平野部、その突端に位置する函館山、それらを包み込む海洋部、このような都市の構成・輪郭を保全し、強調する。

- 外縁の丘陵・山岳部の地形と緑の保全
- 扇状の市街地の強調（港・海浜の輪郭線の整備・強調と、6放射4環状線・マストラ強化軸の整備・強調）
- 函館山の地形と緑の保全
- 海洋部の保全

② 成り立ちの面から

港湾都市、わが国最初の国際貿易港として開港以来多くの諸外国文化の流入をみたまち、維新の動乱の最後のドラマが演じられたまち、北海道開拓の玄関口、北洋漁業の基地など、函館の成り立ちを表現している景観を保全し、また強調する。

- 西部地区の歴史的景観の保全
- 特別史跡五稜郭跡の保存・整備と周辺の景観整備
- 臨港地区の環境整備と景観整備
- 都心部における函館らしさをいかした顔づくり



(2) 函館の都市景観上の特徴の保全・活用

函館市の都市景観は、他都市にはない多くの特徴をもっているが、それらを保全し、または積極的に活用していく。

① 都市全体を把握できる眺望点をもっていること

- ・函館山山頂の眺望点の保全・整備
- ・新たな眺望点の整備
- ・イベント等による共有機会の演出

② 市街地の夜景が大きな魅力となっていること

- ・函館山山頂の眺望点の保全・整備
- ・新たな眺望点の整備
- ・建築物等のライトアップをはじめ、夜間照明の効果的演出
- ・市街地の輪郭線と都心部の強調
- ・イベント等による共有機会の演出

③ 景観資源の多くが観光資源としても高い価値をもっていること

- ・西部地区の歴史的景観の保全
- ・特別史跡五稜郭跡の保存・整備と周辺の景観整備
- ・ウォーターフロント地区の景観整備

④ 豊かな四季の変化をもっていること

- ・街路樹の計画的整備
- ・丘陵・山岳部、函館山との調和（主要な眺望点からの稜線の保全等）
- ・丘陵・山岳部、函館山、海洋部、そして雪、これら自然の四季を通じた色彩変化を考慮した市街地の色彩計画

⑤ 豊かな水環境をもっていること

- ・港湾周辺の環境整備
- ・海岸線の環境整備
- ・河川沿いの環境整備



(3) 豊かな都市環境の実現

都市景観の形成は、個性・特徴の保全・強調・活用のみならず、基本的に豊かな都市環境を実現していくためのものである。

① 緑豊かな都市環境の実現

- ・街路樹の計画的整備
- ・公園・緑地の計画的整備
- ・緑のネットワークの形成

② 水をいかした都市環境の実現

- ・港湾・ウォーターフロントの環境整備
- ・海岸線・河川沿いの環境整備
- ・公園等における水の演出・効果的使用
- ・水のネットワークの形成

③ 調和のとれた町並みの形成

- ・それぞれの地域特性をいかした住宅地の形成
- ・緑豊かな道路整備

④ 個性的な商業地の形成

- ・都心部における函館らしさをいかした顔づくり
- ・それぞれの地域特性をいかした商店街形成
- ・歩行者空間の充実
- ・広告物等の誘導・整備

⑤ 産・学・住の充実した親しみのある工業地の形成

- ・豊かな環境をもつ工業地の形成
- ・調和のとれた工業地の形成

